

2018年7月（日本国大使館）

## 安 全 情 報

### ～2018年上半期中の邦人の犯罪被害状況～

「自分の身は自分で守る。」をモットーに、楽しくカンボジアライフを送り、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

#### 1 カンボジア国内における邦人の犯罪被害状況

本年上半期中（2018年1月～6月）に当館が認知した邦人の犯罪被害件数は計28件（2017年上半期中の認知は32件）でした。被害が些少であったり、旅券が被害に遭わなかった場合等には当館に被害を届け出られないケースも相当数あるものとみられ、実際の被害件数はもっと多いものと思われま

す。犯罪の傾向としては、依然としてひったくりが多く発生しており、被害者が怪我をする事案も度々発生しているほか、強盗、置き引き、いかさま賭博等の犯罪も度々発生していますので、当国、特にプノンペン都内に滞在される方は、十分な警戒が必要です。

なお、内訳は以下のとおりです。

- ひったくり 15件（2017年上半期22件）
- 置き引き 7件（2017年上半期2件）
- いかさま賭博詐欺 3件（2017年上半期4件）
- 強盗 1件（2017年上半期3件）
- 空き巣 1件（2017年上半期1件）
- 傷害 1件（2017年上半期0件）
- ※ 被害品の中に旅券が入っていたケースは18件でした。

海外で通用する身分証明書は旅券のみです。

旅券を所持していない場合、身分を証明することができないことから当国当局との無用のトラブルに巻き込まれるおそれがあります。また、旅券を紛失した場合には、警察への届出、大使館への旅券または帰国のための渡航書の発給申請、カンボジア入国管理局での出国許可取得等の諸手続きが必要となるなど、その後の行動に大きな支障を及ぼしますので、旅券の携行方法や保管方法等には細心の注意を払い、適切に管理をしてください。

- ※ 海外旅行保険に加入されていない方がおりました。

過去には、当国で傷病事案となり病院に搬送されたものの、支払い保証が確認できるまで病院側が治療を行わなかったことから、重度の後遺症が残ったり、死に至る事案も発生していますので、滞在期間にかかわらず海外旅行保険への加入を強く推奨します。

## 2 安全対策

海外安全対策の基本は「自分の身は自分で守る」ことです。

そのためには、各自が「危機意識の保持」、「恒常的な情報収集」、「有効な対応策の策定」を行うことが非常に重要です。以下に当館で認知した事例と安全対策例を掲載いたしますので、ご自身の安全対策上の参考としてください。

### (1) 基本的安全対策

#### 【参考事例】

- 犯罪被害に遭うまで、カンボジアは安全だと思っていた。
- 赴任当初は安全に気をつけていたが、だんだんと意識が薄れ「自分は大丈夫」だと思っていた。
- 大切な物（旅券、現金、クレジットカード、携帯電話等）を全て一つのバックに収納して持ち歩いていたところ、ひったくりに遭い全て盗まれた。
- 被害に遭い警察に届けを出しに行ったが、英語も通じず、たらい回しにされた。
- 当国で重病となり、医療水準の高い近隣国の病院で治療する必要があったが、海外旅行保険に加入していなかったため、緊急搬送することができなかった。
- ひったくりに遭って負傷し、病院で治療を受けたところ、高額の治療費を請求された。

#### 【安全対策例】

- 大使館からの安全情報等をメールで受け取ることができるので、「在留届」の提出（※3か月以上滞在の場合）または「たびレジ」への登録を確実に行う。
  - 外務省海外安全ホームページ、当館ホームページ、当国内報道等あらゆる情報ソースを活用して、常に最新の情報を入手するよう心掛ける。
  - 危険な場所、野次馬等が集まる場所に近づかない。
  - 旅券は、海外で通用する唯一の身分証明書であることを念頭に、その携行や保管等については細心の注意を払う。
  - リスクの分散化のため、旅券、現金、携帯電話は別々に携行・保管する。
  - 英語が通用しない場合も多いので、通訳業務を行っている日系旅行会社や、信頼できるカンボジア語通訳の連絡先等を把握しておく。
  - 海外渡航の際には、必ず十分な補償のある海外旅行保険に加入する。
- ※ 被害等に遭わないための対策はもちろん重要ですが、仮に事件・事故等に巻き込まれてしまった場合に、被害を最小限に抑え、早期に回復するための対策も非常に重要です。

## (2)強盗・ひったくりに対する安全対策

### 【参考事例】

- 午前 1 時頃、ナーガワールドから出てバイクタクシーでホテルに向かって  
いたところ、裏通りに入った瞬間、後方から接近してきたバイクの男に蹴り  
倒された上、拳銃を突きつけられてバッグを強奪された。(※カジノ周辺では  
過去にも拳銃を使用した強盗事件が発生していることから、夜間に同所周辺  
に行かれる際には細心の注意を払ってください。)
- 午前 5 時頃、リバーサイド周辺を 1 人で観光していたところ、後方から接  
近してきたバイクの男に、いきなり左腕をナイフで切りつけられ、バッグを  
強奪された。(※最近、ナイフでショルダーバッグの肩紐を切断して強奪する  
手口が報告されています。)
- 午前 10 時頃、リバーサイド周辺を 1 人で観光していたところ、見知らぬ男  
から、ズボン後ろポケットに入れていた携帯電話を抜き取られ、返還を求め  
て追いかけているうちに裏路地に連れ込まれた。そこで別の男数人が現れ、  
刃渡り 20 センチくらいのナイフで頭、左腕を切りつけられた上、倒れたとこ  
ろを殴る蹴るの暴行を受け、現金等を強奪された。
- マーケット周辺をトゥクトゥクに乗車して移動していたところ、後方から  
接近してきたバイクの男にバッグを掴まれ、ひったくられそうになった。ト  
ウクトゥクを飛び降りて犯人ともみ合いになったところ、犯人に刃渡り 15 セ  
ンチくらいのナイフで切りつけられ、バッグを強奪された。(※特にプノンペン  
都内では、時間帯(朝、昼、夜)・場所(大通り、裏通り、通行量)等に関  
係なくひったくりが発生しており、過去には、ひったくり犯ともみ合いとな  
り、拳銃で撃たれ重傷を負う事案も発生しています。)
- ショルダーバッグをたすき掛けにしてバイクに乗車していたところ、後方  
から来たバイクの男に肩紐部分を強く引っ張られ、転倒して腕を骨折した。  
(※トゥクトゥクやバイクタクシー等に乗車中にひったくりに遭い、転落さ  
せられたり、引きずられて重傷を負うケースが度々発生しています。)
- レストランやバーで知り合った外国人(自称中東系、欧米系外国人等)と  
一緒に飲酒したところ、酩酊状態とさせられた上、気が付くと財布等が抜き  
取られていた。(※プノンペン都内のリバーサイド周辺やシェムリアップ州の  
パブストリート周辺等で、度々、昏睡強盗事件が発生しています。)

### 【安全対策例】

- 拳銃やナイフ等の凶器を出されたら、身体の安全を最優先とし、一切抵抗  
しない。
- 徒歩で外出する際はバッグ等を持たない。バッグ等を携行する場合は、必  
ず車両(メータータクシー等)を利用する。
- 所持金は小分けにして所持し、人前で多額の現金を出さない。
- トウクトゥクを利用する場合には、利用したことのある信頼できるドライ

バーに依頼する。あるいは、ホテルやレストランの従業員に顔見知りの運転手を手を呼んでもらう。

- トウクトゥクに乗車してからも気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか、後方等に不審なバイクが併走していないかなど、常に周囲の様子を確認する。
- やむを得ずバッグ等を持ってトウクトゥクに乗車しなければならない場合は、バッグ等を人目に付きやすい椅子や膝の上に置かず、しっかりと把持するとともに、常に周囲（特に後方）への警戒を怠らない。
- バッグは、肩紐が頑丈なリュックサック型を選び、しっかりと両肩に背負うか肩紐を両肩にかけて体の前で把持する。
- バイクタクシーは、ひったくられた際に転倒する危険性が高いので利用しない。
- 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、不審者等がいるのを確認したら、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごす。
- レストラン等で知り合った外国人と飲酒する際は、昏睡強盗が発生していることを念頭に警戒を怠らない。

### (3) スリ・置き引きに対する安全対策

#### 【参考事例】

- シェムリアップ州のアンコール遺跡群周辺を観光中、東アジア系観光客とみられる集団とすれ違った後、気がついたらバッグの中から財布がなくなっていた。
- 徒歩で散策していたところ、4、5人の物乞いをする子供らにまとわりつかれ、気が付くと、ショルダーバッグのチャックが開いており、中から財布がなくなっていた。
- リバーサイド周辺を観光中、女装した男3名から両手を掴まれ人気のないところに連れて行かれた。その後、男らは体を触って去って行ったが、気が付くとズボンのポケットの中に入れて置いた財布、携帯電話がなくなっていた。
- 大型ショッピングモールや市場で買い物をしていたところ、気が付くと背負っていたリュックサックのチャックが開いており、中から財布がなくなっていた。
- レストランで食事中、バッグを隣の椅子の上に置いておいたところ、気が付くとバッグがなくなっていた。

#### 【安全対策例】

- トートバッグ等の中身が見えるバッグは使わない。
- 人混みの中では、バッグを体の前で把持する。
- レストラン等において、鞆等を隣のイスやイスの下等に置かず、膝の上で

把持するなど、常に体から離さないようにする。また、席を離れる時は、鞆等をその場に放置しない。

- 女装した男性や子供による抱きつきスリも報告されていることから、近付いてくる女性や子供に対して警戒心を怠らない。

#### (4) 空き巣等に対する安全対策

##### 【参考事例】

- サービスアパートメントに住んでいたが、外出から戻ってきたら空き巣に入られていた。防犯カメラを確認したところ、犯人は誰でも立ち入れる階段からアパート内に侵入した上、防犯カメラの死角となっている窓から部屋に侵入していた。
- ホテルに宿泊し、部屋のテーブルの上にポーチ（旅券、現金等在中）を置いていたところ、外出から戻ってきたらポーチがなくなっていた。

##### 【安全対策例】

- サービスアパートメント等に入居する場合には、警備員や防犯カメラ等の警備設備の整っている物件を選定する。
- 玄関ドアは枠も含めて頑丈であるか確認し、2個以上の鍵を備えるほか、扉を開けなくても来訪者を確認できるようにドアスコープ及びチェーンロックを設置する。
- 玄関ドアの周囲に小窓がある場合、小窓を壊されて鍵が開けられる場合もあるので鉄格子等を設置する。
- 窓は格好の侵入口であることから、窓枠も含めて頑丈であるか確認し、屋根、屋上、隣家等からの侵入が可能である場合には鉄格子等を設置する。
- 外出時や就寝時には、玄関ドア、各窓を確実に施錠する。
- 室内に貴重品を放置せず、必ず金庫等に入れて保管する。
- ホテル室内の金庫からの窃盗被害も報告されていることから、リスク分散化のため、旅券と現金を別々にするほか、現金も小分けに保管する。

#### (5) いかさま賭博詐欺に対する安全対策

いかさま賭博詐欺とは、犯行グループが、主に単独で観光をしている邦人旅行者を狙って、言葉巧みにアジトに誘い入れ、いかさま賭博を持ちかけて、最終的に多額のお金をだまし取る犯罪です。

##### 【参考事例】

- 犯人の声かけ場所は、プノンペン都内の王宮、ワットプノン、セントラルマーケット等の市場、大型ショッピングモール等の観光客が多く訪れる場所が多い。
- 犯人は、東南アジア系の男女（カンボジア人以外を名乗るケースが多い。）である場合が多く、土地勘がないことなどを確認するため、声かけの最初の

段階で、日本人であること、短期滞在の観光客であることを確認する。また、警戒心を解くため、「親族（妹、姪など）が日本に行く予定があるので日本のことを教えて欲しい」、「自宅で食事をしながらゆっくり話そう」などと言葉巧みにアジトに誘い込む。

- アジトにおいていかさま賭博だと気が付き、ゲームをやめようとしたが、マフィア風の男が現れ、所持していた貴重品（パソコン、カメラ、携帯電話等）を担保として取られたとのケースも発生。

#### 【安全対策例】

- いかさま賭博詐欺の特徴（手口）を知っておく。
- 安易に旅行中に知り合った人の誘いに応じて一緒に行動しない。
- 安易に自分の宿泊先や連絡先、滞在先を教えない。
- いかさま賭博に気が付いたら、犯人を刺激しないよう注意しながら、脱出の機会を窺う。
- アジトから解放された後、仮に同アジトの場所を覚えていたとしても、絶対に戻らない。

### (6) 交通上のトラブルに対する安全対策例

#### 【参考事例】

- 人身事故を起こして逃走した邦人が、現地人にバイク等で追跡され、逃走先で2度目の事故を起こし車両が停車。現地人から車から引きずりだされ殴る蹴るの暴行を受けた（その後、警察官が拳銃で威嚇射撃を行い救出）。

#### 【安全対策例】

- 必ず保険に加入する。
- 交通ルールが遵守されていないことから、自分では極力運転しない。自分で運転する場合には、危険を予測しながらの運転を常に心掛ける。
- 自分で運転して事故をおこした場合、日本と同様に負傷者の救護、警察への通報、保険会社への連絡等を速やかに行い、絶対にその場から逃げない。

カンボジアは、過去と比較して安全になったイメージがありますが、凶悪なものを含む犯罪が依然として頻繁に発生しています。「日本とは違う」ということを常に念頭に置き、「自分の身は自分で守る」との基本意識を持って、自身の安全確保に努めてください。